



2025年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月7日

上場会社名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント 上場取引所 東
コード番号 6425 URL <https://www.universal-777.com>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）岡田 知裕
問合せ先責任者 （役職名）専務執行役員CFO （氏名）佐藤 暢樹 TEL 03-5530-3055
半期報告書提出予定日 2025年8月7日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2025年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年1月1日～2025年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期中間期	62,175	△1.2	847	△74.0	△14,752	—	△9,874	—
2024年12月期中間期	62,907	△20.7	3,264	△69.6	5,567	△80.4	525	△97.5

（注）包括利益 2025年12月期中間期 △17,421百万円（－％） 2024年12月期中間期 5,881百万円（△85.1％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期中間期	△127.43	—
2024年12月期中間期	6.78	6.78

（注）2025年12月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり中間純損失であるため、記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年12月期中間期	594,410	352,309	59.3	4,546.47
2024年12月期	632,795	369,731	58.4	4,771.28

（参考）自己資本 2025年12月期中間期 352,309百万円 2024年12月期 369,731百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	30.00	—	0.00	30.00
2025年12月期	—	0.00	—	—	—
2025年12月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2025年12月期の連結業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	150,000	18.7	16,000	429.1	1,000	—	800	10.32

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2025年12月期中間期	80,195,000株	2024年12月期	80,195,000株
2025年12月期中間期	2,704,139株	2024年12月期	2,704,096株
2025年12月期中間期	77,490,867株	2024年12月期中間期	77,490,904株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（中間期）

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当中間決算に関する定性的情報(5)連結業績予想について」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) キャッシュ・フローの状況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(5) 連結業績予想について	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(会計方針の変更)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等の注記)	10
(5) 追加情報	12
(6) 重要な後発事象	12

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

遊技機事業においては、当中間連結会計期間における総販売台数は55,589台となりました。統合型リゾート(IR)事業では、オカダ・マニラのあるエンターテインメントシティ全体において、インバウンド顧客が低調に推移したことに加え、VIPマーケットにおけるゲーミング収益の落ち込みをマスマーケットの収益で補うことができなかったこと、ホテル・飲食事業もふるわなかったことが業績にそのまま反映されました。

また為替については、当中間連結会計期間において円高ドル安が進行したことにより、8,020百万円の為替差損を計上いたしました。これにより、経常損失の大きな要因の一つとなりました。なお、前年同期は円安ドル高により為替差益を11,101百万円計上しており、今期はこの反動減の影響も大きく表れました。加えて、社債利息については、米ドル建ての社債が主であることから、円高ドル安により債務圧縮効果があるものの、引き続き高水準で推移しており、財務費用全体を押し上げる要因となっております。

以上の結果、当中間連結会計期間における売上高は62,175百万円(前年同期比 1.2%減)、営業利益は847百万円(前年同期比 74.0%減)、経常損失は14,752百万円(前年同期 経常利益5,567百万円)、親会社株主に帰属する中間純損失は9,874百万円(前年同期 親会社株主に帰属する中間純利益525百万円)となりました。なお、事業セグメント別の業績は以下のとおりであります。各業績数値はセグメント間売上高又は振替高を調整前の金額で記載しております。

①遊技機事業

当中間連結会計期間における遊技機事業の売上高は27,159百万円(前年同期比 30.8%増)、営業利益は5,175百万円(前年同期比 37.6%増)となりました。

遊技機業界では、スマートパチスロの普及が順調に進み、パチンコホールの期待に応える好調な稼働を継続しており、パチスロ機の市場環境は良好です。パチンコ機においては、ラッキートリガー(LT)搭載のスマートパチンコからヒット機種が登場するなど、スマートパチンコの普及に進展は見られましたが、パチンコ機の稼働状況はやや低調に推移しております。

かかる状況下で当社は、初代「SLOT魔法少女まどか☆マギカ」を彷彿とさせるゲーム性が魅力の『スマスロ マギアレコード 魔法少女まどか☆マギカ外伝』、名機「緑ドン VIVA! 情熱南米編」が進化を遂げて復活した『スマスロ 緑ドン VIVA! 情熱南米編 REVIVAL』、A+ATタイプの最上位スペック『スマスロ ギルティクラウン2』の販売を行いました。パチンコ機においては、LT搭載機『Pアナザーゴッドハーデス-獄炎-』等の販売を行いました。

②統合型リゾート(IR)事業

当中間連結会計期間における統合型リゾート(IR)事業の売上高⁽¹⁾は34,641百万円(前年同期比 16.9%減)、営業損失は1,318百万円(前年同期 営業利益3,280百万円)となりました。また、調整後EBITDA⁽²⁾は7,298百万円(前年同期比 37.7%減)となりました。

当社グループが運営する統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」の実績は、第2四半期は前年同期を下回る結果となりました。ゲーミング事業では、エンターテインメントシティでのゲーミング市場全体の落ち込みが続く中、VIP客向け売上高は第1四半期を上回りましたが、マスマーケットにおけるテーブルゲーム、ゲーミングマシンの売上高は、前年同期比及び第1四半期比減となりました。また、ホテル・飲食事業においても減収となりました。

(1) 売上高は、総売上高からゲーミング税及びジャックポット費用を控除したもの

(2) 調整後EBITDA = 営業損益 + 減価償却費 + その他の調整項目

③その他

当中間連結会計期間におけるその他の売上高は297百万円(前年同期比 46.6%増)、営業利益は232百万円(前年同期比 37.0%増)となりました。

メディアコンテンツ事業においては、App Store・Google Playにて『沖ドキ! ゴージャス』のシミュレーターアプリの配信を開始しました。月額制サービスの「ユニバ王国」及び基本プレイ無料のソーシャルカジノゲーム「スロットストリート」では、ゲーム内イベントを常時開催し、新規ユーザーの獲得と満足度向上に努めております。楽曲配信においては、主要サイトApple Music・Spotify・YouTube Musicをはじめとする24のサイトへ『Pアナザーゴッドハーデス-獄炎-オリジナルサウンドトラック』を提供しております。

(2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末における財政状態については、以下のとおりです。

総資産の額は、現金及び預金、有価証券が増加した一方、円高ペソ安、円高ドル安の進行による減少、貸倒引当金(長期)の増加もあり、前連結会計年度末に比べて38,384百万円減少し594,410百万円となりました。

総負債の額は、円高ペソ安、円高ドル安の進行による減少、流動負債(その他)が減少したため、前連結会計年度

末に比べて20,963百万円減少し242,101百万円となりました。

純資産の額は、利益剰余金が親会社株主に帰属する中間純損失、円高ペソ安の進行による為替換算調整勘定が減少したこともあり、前連結会計年度末に比べて17,421百万円減少し352,309百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、減価償却費、リースや借入金の支払利息・社債利息の計上、円高ドル安の進行による為替差損益等により増加したことに加え、社債・リース・借入金の利息支払、工事前渡金に伴う支出等もあり有形・無形固定資産の取得による支出、連結子会社における既存の長期借入金の返済の支出により減少したこともあり、前連結会計年度末に比べて1,398百万円減少し、22,397百万円となりました。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

2025年上期の営業キャッシュ・フローは7,180百万円のプラスとなりました。税金等調整前中間純損失は11,645百万円を計上いたしました。これには減価償却費9,793百万円や為替差損7,764百万円といった非現金要素が多額に含まれており、実質的には前年同期比で改善しております。他方、利息の支払額は5,463百万円と金融費用の負担が依然として重い状況です。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

2025年上期の投資キャッシュ・フローは4,902百万円のマイナスとなりました。主要因は有形・無形固定資産の取得に伴う支出(合計3,962百万円)です。これは、遊技機事業や統合型リゾート(IR)事業の設備投資・維持更新のための支出が継続したことによるもので、事業拡張や将来収益確保を目的とした先行投資が中心です。なお、その他の投資活動は限定的であり、期中における資産売却や貸付金回収による大きな現金流入は発生せず、投資活動全体としては純流出となりました。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

2025年上期の財務キャッシュ・フローは351百万円のマイナスとなりました。主要因は連結子会社における長期借入金の返済299百万円によるものです。新規の資金調達活動はほとんど行われず、期中の資金繰りは既存手元資金と営業キャッシュ・フローで対応しました。そのため、財務キャッシュ・フローの動きは小規模になりました。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

①遊技機事業

遊技機業界における市場環境は、パチスロ機においては、ボーナストリガー(BT)搭載機の市場投入により遊技の多様性が向上し、今後もさらなる市場の活性化が期待されている状況です。パチンコ機においては、スマートパチンコを対象とする新基準ラッキートリガー(LT)3.0プラス搭載機の市場導入を本年7月に開始しており、高稼働を記録する機種が登場するなど、市場環境の好転に向け明るい兆しが見え始めております。

第3四半期は、主要タイトルである『沖ドキ! ゴージャス』と『スマスロ マギアレコード 魔法少女まどか☆マギカ外伝』の増産販売、A PROJECTからスマスロ第1弾となる『アレックス ブライト』の市場投入、Aプロ系ファミスロ第3弾『スマスロ/SLOT ドルアーガの塔』の販売を開始しています。また、パチンコ機においては、パチンコホールより好評を博している『Pハネモノ ファミリースタジアム』の増産販売、LT3.0プラスを搭載した当社グループ初のスマートパチンコ『eシャーマンキング』『eシャーマンキング でっけえなver.』の市場投入等を行っております。

当社は引き続き、独自性のある魅力的な遊技機の創出に努め、遊技機業界全体の活性化に貢献するとともに、販売シェアの拡大に努めてまいります。

(ご参考) 2025年12月期 パチスロ・パチンコ販売台数

	第1四半期	第2四半期	第3四半期(受注済)	第4四半期
販売台数(台)	18,623	36,966	27,000	未定

(注) 第2四半期までの実績については、「2025年12月期 第2四半期(中間期)決算補足資料」

(<https://www.universal-777.co.jp/ir/library/result/>) をご参照ください。

②統合型リゾート(IR)事業

オカダ・マニラでは、ゲーミング事業におけるマーケティング力強化のための人材の採用と育成を行っています。これらの取り組みにより、フィリピン国内顧客層の拡大、及び日本・韓国・その他東南アジア各国からの観光客の誘致に対応可能な体制を整えています。第2四半期では、顧客にカジノスペースにより長く滞在していただけるよう、コーラルラウンジをリニューアルしました。

非ゲーミング事業においても、第1四半期に6年連続でフォーブス・トラベルガイドの5つ星を獲得、第2四半期には、オカダ・マニラのCSR活動がグローバルゲーミングアワードアジアの表彰を受けました。引き続き、定期的なホテル・飲食イベントに加え、館内施設を利用した大型イベントの開催や海外メディアの現地視察ツアー誘致の継続、オカダ・マニラへの来場者数の増加を目指してまいります。このように、ゲーミング、非ゲーミング事業が一体となって、施設全体の魅力度を高めるための取り組みを継続してまいります。

③その他

メディアコンテンツ事業においては、App Store・Google Playにて、A PROJECTからスマスロ第1弾となる『アレックス ブライト』のシミュレーターアプリの配信を本年8月下旬より開始する予定です。月額制サービスの「ユニバ王国」及び基本プレイ無料のソーシャルカジノゲーム「スロットストリート」においても、サービスの改善、ユーザー満足度の向上に努めてまいります。

(5) 連結業績予想について

2025年12月期の通期連結業績予想につきましては、2025年2月13日に公表した内容から変更はありません。なお、今後の為替相場の変動、収益の進捗状況等をふまえて、修正が必要であると判断した場合には速やかに公表いたします。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,795	24,768
受取手形及び売掛金	5,804	5,321
有価証券	279	1,396
商品及び製品	2,453	3,519
仕掛品	17,952	16,441
原材料及び貯蔵品	12,944	12,939
その他	16,481	17,529
貸倒引当金	△854	△859
流動資産合計	78,856	81,056
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	359,800	336,231
建設仮勘定	9,665	7,805
リース資産(純額)	51,515	47,848
その他	36,229	33,820
有形固定資産合計	457,209	425,705
無形固定資産		
その他	2,041	2,075
無形固定資産合計	2,041	2,075
投資その他の資産		
投資有価証券	10,250	10,807
長期預け金	9,735	8,921
関係会社長期預け金	38,351	35,121
関係会社長期未収入金	9,967	8,307
その他	30,567	27,937
貸倒引当金	△5,041	△6,285
投資その他の資産合計	93,830	84,809
固定資産合計	553,082	512,590
繰延資産	857	763
資産合計	632,795	594,410

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (2025年 6 月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,290	5,765
1年内返済予定の長期借入金	948	1,448
未払金	6,020	5,021
未払費用	9,709	10,240
未払法人税等	43	98
賞与引当金	93	565
その他	20,234	16,800
流動負債合計	43,341	39,940
固定負債		
社債	62,913	57,935
長期借入金	62,152	56,041
退職給付に係る負債	1,099	1,262
関係会社長期預り金	14,233	13,032
リース債務	61,420	58,256
その他	17,902	15,631
固定負債合計	219,723	202,160
負債合計	263,064	242,101
純資産の部		
株主資本		
資本金	98	98
資本剰余金	18,828	18,828
利益剰余金	342,614	332,739
自己株式	△7,298	△7,299
株主資本合計	354,241	344,366
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△32	△68
為替換算調整勘定	15,693	8,135
退職給付に係る調整累計額	△170	△124
その他の包括利益累計額合計	15,489	7,942
純資産合計	369,731	352,309
負債純資産合計	632,795	594,410

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
売上高	62,907	62,175
売上原価	24,065	25,829
売上総利益	38,842	36,345
販売費及び一般管理費	35,577	35,497
営業利益	3,264	847
営業外収益		
受取利息	626	378
受取配当金	15	16
為替差益	11,101	—
持分法による投資利益	—	1,324
その他	450	136
営業外収益合計	12,194	1,854
営業外費用		
支払利息	2,226	4,380
社債利息	6,892	3,382
為替差損	—	8,020
支払手数料	4	4
持分法による投資損失	504	—
貸倒引当金繰入額	—	1,521
その他	263	145
営業外費用合計	9,891	17,455
経常利益又は経常損失(△)	5,567	△14,752
特別利益		
固定資産売却益	99	28
賠償金収入	—	3,512
その他	—	2
特別利益合計	99	3,544
特別損失		
固定資産除売却損	4	83
関係会社株式評価損	149	4
海外投資損失	1,099	—
訴訟関連損失	—	350
特別損失合計	1,252	437
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	4,414	△11,645
法人税、住民税及び事業税	77	117
法人税等調整額	3,812	△1,889
法人税等合計	3,889	△1,771
中間純利益又は中間純損失(△)	525	△9,874
非支配株主に帰属する中間純利益	—	—
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失(△)	525	△9,874

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
中間純利益又は中間純損失(△)	525	△9,874
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△53	△35
為替換算調整勘定	5,416	△7,557
退職給付に係る調整額	△5	46
その他の包括利益合計	5,356	△7,547
中間包括利益	5,881	△17,421
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	5,881	△17,421
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	4,414	△11,645
減価償却費	8,878	9,793
有形及び無形固定資産除売却損益(△は益)	△95	54
関係会社株式評価損	149	4
海外投資損失	1,099	—
持分法による投資損益(△は益)	504	△1,324
受取利息及び受取配当金	△642	△394
支払利息	2,226	4,380
社債利息	6,892	3,382
為替差損益(△は益)	△10,879	7,764
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△288	1,531
売上債権の増減額(△は増加)	6,456	404
棚卸資産の増減額(△は増加)	△1,711	308
仕入債務の増減額(△は減少)	△4,070	△410
未払消費税等の増減額(△は減少)	△2,321	437
未収入金の増減額(△は増加)	△1,334	57
未払金の増減額(△は減少)	△1,274	△859
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△793	60
その他の流動負債の増減額(△は減少)	16	△1,726
その他の固定負債の増減額(△は減少)	△605	39
その他	770	768
小計	7,391	12,625
利息及び配当金の受取額	268	80
利息の支払額	△6,701	△5,463
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△116	△61
営業活動によるキャッシュ・フロー	842	7,180
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4,316	△3,662
有形固定資産の売却による収入	99	—
無形固定資産の取得による支出	△233	△300
投資有価証券の取得による支出	△5	△5
短期貸付金の回収による収入	10	60
長期貸付けによる支出	△2,900	—
長期貸付金の回収による収入	—	189
その他	△336	△1,184
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,680	△4,902
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△4,820	△299
その他	△38	△52
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,858	△351
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,683	△938
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△10,013	987
現金及び現金同等物の期首残高	44,190	23,795
その他の現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	101	△2,385
現金及び現金同等物の中間期末残高	34,278	22,397

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結キャッシュ・フロー計算書注記)

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
現金及び預金勘定	34,286百万円	24,768百万円
その他	△7(※1)	△2,385(※2)
預入期間が3ヵ月以内の譲渡性預金	—	14(※3)
現金及び現金同等物	34,278	22,397

※1. 当社グループの連結子会社TIGER RESORT, LEISURE AND ENTERTAINMENT, INC.において一部の預金口座が凍結されていることにより、当該預金が随時引き出し可能な預金に該当せず、中間連結キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物の定義を満たさなくなったため、当該金額を減額しているものです。

※2. 当社グループの連結子会社TIGER RESORT, LEISURE AND ENTERTAINMENT, INC.において、2024年8月に行った銀行借入において、債務の返済に充てるための現預金残高が不足した場合において債務の返済に充てるための準備金、ならびに従業員の給与から天引きされ、従業員退職時に引き出し可能な退職金積立基金が、当該預金が随時引き出し可能な預金に該当せず、中間連結キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物の定義を満たさなくなったため、当該金額を減額しているものです。

※3. 預入期間が3ヶ月以内の譲渡性預金は、中間連結貸借対照表の有価証券に含まれております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2024年1月1日 至2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	遊技機事業	統合型リゾート (IR)事業		
売上高				
外部顧客への売上高	20,759	41,678	202	62,640
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	389	389
計	20,759	41,678	591	63,030
セグメント利益	3,760	3,280	169	7,210

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、メディアコンテンツ事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	7,041
「その他」の区分の利益	169
セグメント間取引消去	△334
全社収益（注1）	267
全社費用（注2）	△3,878
四半期連結損益計算書の営業利益	3,264

（注）1. 全社収益は、主に報告セグメントに帰属しない美術館の収入であります。

2. 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自2025年1月1日 至2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	遊技機事業	統合型リゾート (IR)事業		
売上高				
外部顧客への売上高	27,159	34,641	297	62,097
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	324	324
計	27,159	34,641	621	62,422
セグメント利益又は損失(△)	5,175	△1,318	232	4,089

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、メディアコンテンツ事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,857
「その他」の区分の利益	232
セグメント間取引消去	△201
全社収益(注1)	77
全社費用(注2)	△3,117
四半期連結損益計算書の営業利益	847

(注) 1. 全社収益は、主に報告セグメントに帰属しない美術館の収入であります。

2. 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(5) 追加情報

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。